公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2016年8月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆私たちの探鳥会自慢・・・・・・・・・・・1
「視覚障がい者のための探鳥会を行いました！」
◆もしも、あなたの探鳥地で開発計画が持ち上がったら・・・・・・・・・・・・・・・・・3
「対応・交渉」
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・5
（2016年6月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・7
・探鳥会リーダーズフォーラム西日本の参加者を募集しています！
・2016年度版「探鳥会保険のご案内」を発行いたします
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・12
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・13
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・13

◆私たちの探鳥会自慢

日本野鳥の会もりおかからNPO法人メイプル協会に協力して行なわれた、視覚障がい者のための探鳥会についてご紹介していただきます。

「視覚障がい者のための探鳥会を行いました！」

日時：2016年6月12日（日）
　　10時～12時
場所：高松の池（岩手県盛岡市）
参加者：視覚障がい者10名、介添えの方9名
スタッフ：12名

日本野鳥の会もりおかでは、NPO 法人日本メイプル協会から依頼を受けて、「視覚障がい者のための探鳥会」を実施いたしました。

定例の「高松の池探鳥会」（探鳥会スタッフ通信 2015年11月号で紹介）の第2部として開催し、一般参加者とは別の場を設けて対応しました。

当会としても初めての試みであるため、よくわかっている定例探鳥会のフィールドを選んだこと、改めて入念な下見を行い、NPO の担当者にも一緒に歩いていただくなど準備には万全を期しました。雨天の場合は、介護スタッフと白杖で両手がふさがり傘がさせなくなること、たとえさせたとしても雨粒の音で周りの音がかき消されてしまうなど、通常の探鳥会以上に運営が難しくなるため雨天中止としました。

当日はお天気にも恵まれ、全盲の方8名、弱視の方2名に介護スタッフ9名を加えた、合計19名の参加者をお迎えしました。もりおかのスタッフは12名で、計画ではもう少し少なくなる予定でしたが、ありがたいことに定例探鳥会の後に実施したため、幹事以外のメンバーも残って協力してくれました。

スタッフにも余裕が生まれ、通行車両への注意係を数名が担当し、リーダーを先頭に歩き、良い場所で止まって解説するという一般を対象にした探鳥会と同様の方法で進行しました。鳥が出ないときのために、植物に詳しいスタッフもお願いしました。

■探鳥会の様子

探鳥会では、五感のうち視覚を除いた四感（触覚、聴覚、嗅覚、味覚）を使って、全身で自然を感じてもらうように心がけました。中でも聴覚の鳥の声が今回のメインで、美声のキビタキ、クロツグミ、ウグイス、メジロ、シジュウカラ、少しうるさいコムクドリ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、夏の定番ホトトギス、カッコウ、今頃聞くのは珍しいキツツキのドラミング（春早いころに多い）など、開始前に予習で聞いて頂いた声が確認できました。

鳥が出ないときには、花や草木は触ってもらい、葉は大きさや食感、香りを楽しみました。食べられるもの（桑の実、木イチゴ）は食べてもりあがりました。松ぼっくりも拾い、これらは鳥のえさとの関係を説明しました。

今回、特に効果が高かったのがバードカービングを使った解説です。バードカービングの制作者から特徴を説明してもらい、実物大の大きさを実感していただきました。バードカービングを通して NPO の介護スタッフに理解していただき、介護スタッフから参加者に色などを上手に解説してくれていました。

とはいえバードカービングはやはり見ることを意識して作成されていますので、実際に触っていただく教材としては、触り心地が硬い（特に足は金属なので）、実物に比べて重いなど、いくつかの違和感もありました。剥製のほうがよりよいが、実物大の重さを合わせたぬいぐるみでもよいと思いました。

他にも本部で販売している「鳴き声タッチペン」も大活躍でした。

▲バードカービングを触る様子

実施前は不安もありましたが、どうにか探鳥会は事故もなく大好評のうちに終了することができてほっとしています。

今回、NPO 法人メイプル協会とよい関係が作れたので、今後継続的な開催を視野に入れています。もりおかとしては今後もこのような依頼に積極的に応えていきたいと考えています。また、財団や他の支部で同様の取り組みがありましたら積極的に協力したいと思います。

補足として、NPO 法人の方からのコメントと参加者の感想を書き添えます。

▲探鳥会の様子

■参加者の声

NPO 法人メイプル協会事務局長：以前からバードウォッチングを実施したかったが、サポートする方が鳥のことがわからず実施することができませんでした。今回、野鳥の会の方のサポートでようやく実施することができ、参加者からも大変良かったとの感想をもらっています。特に、バードカービングがあったことは、参加者にとっても形状の実感があり、わかりやすくてよかったとの感想が寄せられています。

全盲男性の方の感想：今日は楽しい野鳥観察をありがとうございました。このような観察会を秋、冬、春に行っていただければありがたいです。観察会のもりおか支部のひとたちに感謝します。

（日本野鳥の会もりおか／塚田、柴田、熊谷）

◆もしも、あなたの探鳥地で開発計画が持ち上がったら

第３回「対応・交渉」

６月号に続き、探鳥地を守るために普段からできることというテーマで、財団の自然保護室長の葉山に寄稿してもらいました。６ 月号は、はいざ開発計画が持ち上がったら何をすればよいのか？という内容でしたが、今月号では対応や交渉をどうのようにすればよいのかについて述べてもらいます。

交渉・対応はケース・バイ・ケースでの取り組みとなりますが、いずれにしても長期の取り組みが必要となりますので、支部としての意見を整理して取り組む事が必要です。

■環境影響評価が行われる場合

環境影響評価法は、手続法で一度開始されると法律の手続きに従って、淡々と手続きが進められていきます。一般の意見が求められる配慮書、方法書、準備書の各段階や自治体による公聴会などで意見を述べることは大切ですが、環境影響評価によって、事業そのものが中止となる例は稀です。そのため、支部としての意見を事業者にはっきりと伝えるための法的な手続きでの意見表明とは別に、要望書や意見書の提出も早い段階で行うことが重要です。また、影響の緩和策については準備書で示されます。影響の緩和は、回避、軽減、代償の順に検討されることが本来のあり方ですが、多くの場合軽減案や代償措置の案が示されることが多いので、対策が不十分と思える場合は粘り強い事業者と交渉が必要です。

■環境影響評価が行われない場合

事業がアセス法（条例を含む）の対象事業になっていない場合や事業の規模要件で環境影響評価を必要としない場合でも、事業が環境に与える影響について事業者に対策を検討してもらうことも必要です。環境調査や影響の評価に関する交渉の過程で必要な代替案やミチゲーションについて理解を得ることができる場合もあります。

いずれの場合も、交渉の場面ではしっかりと記録を残し、可能であれば議事録のようなものをつくって先方の確認もとっておけば、言った言ってないの水掛け論を防ぐことができます。さらに、影響の検討や代替案を検討するにあたって、該当する事業分野や影響を受けそうな環境・生き物の専門家に味方になっていただいてアドバイスを頂ける体制が取れれば心強いです。

■世論を味方につけよう

公共工事の場合、事業は公益のために行われているはずです。担当者も社会のためにと思って仕事をしています。こうした思いを持つ計画を変更するためには、世論の後押しは重要です。また、一度決まった計画を変更するのは、担当者では無理で、政治判断が必要な場合もあります。政治家を動かすのは有権者（一般市民）の意見です。

一般の人を味方につけるためには、情報発信が必要です。なぜその場所を守りたいのか。単に自分たちが鳥を見るために使っている場所だからではなく、一般の人にとっても重要な場所であること。計画されている開発がそこにどのような影響を与え、何が失われるのかを広く発信する事が重要です。見栄えの良いわかりやすいチラシを作るなどの方法もあります。最近はインターネットの普及によりホームページに詳しい情報を載せておき、それをＳＮＳやブログなどで広めることが可能です。その地域だけでなく全国からも支持を得られる場合もあります。

計画のスケジュールに余裕が有り、行政との交渉が行き詰まっている場合には、公開の意見交換会やシンポジウムを開くことも考えられます。また、署名を集めて行政に提出したりすることが有効な場合もあるでしょう。特にその場で活動をしている他の団体との協働ができれば、複数の組織が問題だと考えている点をアピールできます。

また、マスコミを上手に使うことは大切な点です。行政との交渉後や要望書を提出した時などに記者会見を行って記事を書いてもらうことも重要です。

特に私有地に民間事業者が事業を行う場合、例えば最近問題のメガソーラーの場合などは、法的規制が無かったり、届け出だけで事業が進むような問題に対しては、世論の後押しが重要です。

■活動記録

交渉がうまく行って計画が変更できた場合も、うまく行かずに開発が行われた場合も活動記録を残して次回のために残しておきましょう。また、全国の支部ともその情報を共有することも大切です。

■まとめ

現在では、自然環境へ配慮するということは、ごく一般的な考え方となってきています。しかし、事業の計画をする立場の人が、そこにある自然の価値に気づいていなければ、配慮のしようもありません。自分たちが大切にしてきた場所について、その価値をどのように一般に知ってもらい、価値を共有するかが大切です。探鳥会の記録はそのための大切な材料になるでしょう。探鳥会に参加された一般のかたもそこで楽しい時がもてれば、支援者になっていただけるでしょう。鳥以外の植物や昆虫などの分野で活動している人と連携することができれば、価値を多方面から評価することができると思います。そうしたことが、事業の関係者にも周知できれば、寝耳に水の開発計画を防ぐことにつながると思います。

（自然保護室／葉山政治）

◆探鳥会保険集計結果（2016 年６月分）

６月は 65 支部からご報告をいただき、計 201 回の探鳥会が開催され、のべ 4,281 人が参加されました。

表 1. ６月の探鳥会保険集計結果（2016 年７月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	3	43	9	3	55
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	1	10	0	3	13
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	1	15	0	1	16
滝川支部	2	23	2	3	28
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	4	106	44	12	162
小樽支部	3	15	7	4	26
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	6	0	3	9
函館支部	0	−	−	−	−
道南桧山	2	13	18	5	36
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	12	10	2	24
秋田県支部	4	59	6	5	70
山形県支部	2	20	7	3	30
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	1	13	24	5	42
北上支部	1	6	0	0	6
宮城県支部	3	42	17	6	65
ふくしま	2	50	2	4	56
郡山支部	2	33	0	5	38
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	1	3	0	4	7
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	15	3	1	19
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	8	97	41	12	150
栃木	−	−	−	−	−
群馬	8	80	36	25	141
吾妻	−	−	−	−	−
埼玉	7	170	74	52	296
千葉県	6	66	15	25	106
東京	11	317	16	58	391
奥多摩支部	8	96	28	29	153
神奈川支部	10	161	39	33	233
新潟県	1	22	2	3	27
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	3	55	23	3	81
石川	3	37	50	17	104
福井県	1	19	3	2	24
長野支部	1	13	10	2	25
軽井沢支部	1	8	3	1	12
諏訪支部	1	5	11	2	18
木曽支部	−	−	−	−	−
伊那谷支部	2	10	4	4	18
甲府支部	2	26	3	4	33
富士山麓支部	0	0	0	0	0
東富士	−	−	−	−	−
沼津支部	1	11	0	2	13
南富士支部	4	85	2	6	93
南伊豆	1	5	1	2	8
静岡支部	4	35	3	7	45
遠江	1	27	5	3	35
愛知県支部	7	69	54	18	141
岐阜	−	−	−	−	−
三重	−	−	−	−	−
奈良支部	3	77	14	6	97
和歌山県支部	1	3	9	3	15
滋賀	2	7	7	4	18
京都支部	4	72	13	8	93
大阪支部	17	233	53	70	356
ひょうご	5	23	43	21	87
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	4	34	7	4	45
島根県支部	−	−	−	−	−
岡山県支部	2	47	19	6	72
広島県支部	3	34	30	8	72
山口県支部	3	16	3	3	22
香川県支部	4	75	77	6	158
徳島県支部	5	59	5	5	69
高知支部	1	12	15	1	28
愛媛	3	12	14	6	32
北九州	2	6	0	2	8
福岡支部	4	70	16	8	94
筑豊支部	4	21	3	4	28
筑後支部	−	−	−	−	−
佐賀県支部	1	12	0	1	13
長崎県支部	−	−	−	−	−
熊本県支部	3	33	9	4	46
大分県支部	1	16	11	2	29
宮崎県支部	1	10	4	1	15
鹿児島	1	21	10	4	35
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	201	2,791	934	556	4,281

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■探鳥会リーダーズフォーラム西日本の参加者を募集しています！■

今年度の探鳥会リーダーズフォーラムは、10 月に兵庫県神戸市で西日本版を、1 月に東京都八王子市で東日本版を開催します。

現在 10 月の西日本版の参加者を募集しています。（50 名先着順、9 月 30 日申し込み締切）

みなさまのお申し込みをお待ちしています。

◆実施概要

＜時　期＞ 2016 年 10 月 29 日（土）
13:00 ～ 30 日（日）12:00
＜主　催＞ （公財）日本野鳥の会　普及室
＜旅行実施＞ （株）南海国際旅行
＜会　場＞ 六甲山 YMCA
＜対　象＞ 支部、連携団体の探鳥会に関わっている方
＜定　員＞ 50 名（定員になり次第締め切り）
＜参加費＞ 10,000 円（1 泊 2 日）
＜プログラム＞

1 日目
13:00　受付
13:30　オリエンテーション
基調講演
「出会いと学びの場としての探鳥会」
上田恵介氏
（公益財団法人日本野鳥の会副会長）

15:00　アイスブレイキング
16:00　第 1 分科会
18:00　チェックイン、休憩
18:30　夕食
19:30　懇親会
23:00　終了

2 日目
6:30　早朝探鳥会／自由集会（自由参加）
7:30　朝食、チェックアウト
8:30　全体集会
8:45　第 2 分科
10:15　休憩、移動
10:30　全体集会
12:00　終了

＜分科会＞

29 日　分科会 A（1 日目）

A-①
「インターネットの広報活用術入門」
渡辺裕幸（岡山県支部）

入会促進を目的とした活動を行うときに重要になってくるのが広報です。新聞や雑誌などのマスコミに情報を掲載してもらうという方法もありますが、今はホームページやブログ、SNS やツィッターなどのインターネットを活用した媒体が不可欠です。インターネットによる情報発信を行う支部が増えれば、相互リンクによる相乗効果で全体としてより効果的な広報媒体にすることができます。この分科会では、インターネットを活用した広報の事例をご紹介し、日本野鳥の会の情報発信を考えていきたいと思います。

▲前回の分科会の様子

A-②
「広がれ！若者向け探鳥会！手さぐりからはじめませんか？」
寺田綾乃（京都支部）・駒田峰子（大阪支部）・田阪知子（奈良支部）

東京、栃木、埼玉、岡山、奈良で開催されている「若者向け探鳥会」。着実に広がりを見せ

て、それぞれの地域で鳥や自然に関心のある若い人たちの集まりが生まれつつあります。分科会では、各地の取り組みの様子を報告していただくとともに、奈良支部で若者向け探鳥会をバックアップしてきたベテランリーダーから、なぜ支部で若者向け探鳥会を始めることになったのかについてお話をうかがいます。

A-③
「あったらいいな！バードウォッチング新商品開発ワークショップ」
生田南美子（財団普及室）

バードウォッチングの新商品は探鳥の場から生まれます。これまでもあの「バードウォッチング長靴」をはじめ、「首ラック」「観察ブラインド」「鳴き声タッチペン」などの人気商品の数々がバードウォッチングの現場から生まれてきました。この分科会では、日ごろ探鳥会やバードウォッチングでフィールドに出ている皆さんの経験から、「あったらいいな！こんなバードウォッチンググッズ」について話し合ってみたいと思います。

30日　分科会B（2日目）

B-①
「野鳥をテーマに子どもたちの心に伝わる環境学習のスキルを身につけよう！」
丸谷聡子、紀田俊明（ひょうご）

小学校や幼稚園等での環境学習を想定した分科会です。例えば、一人のリーダーで 100 人の児童に野鳥の不思議や自然のつながりを伝えるには、どんな工夫が必要でしょうか？子どもたちをひきつける話し方や教材を考えたり、ネーチャーゲームの手法も取り入れたりしながら、子どもたちの心に響く学習の場を創造していきましょう。事例紹介編⇒みんなで考えるワークショップ編⇒すぐに役立つ実習編の３部構成です。みんなでスキルアップしましょう！

B-②
「探鳥会で人材をリクルート」
西村克之（京都支部）

「会員を増やすための探鳥会」「バードウィーク探鳥会」など、定例の探鳥会とは別の企画をやろうとすると問題になってくるのが、どうやってスタッフを集めるかということ。新しいことをやるためには新しいスタッフを増やさないと支部の運営はパンクしてしまいます。この分科会では、京都で行ってきた「平日探鳥会」を活用した人材のリクルート術について事例紹介をしていただき、支部での人材のリクルートを考えてみたいと思います。

B-③
「街がフィールド！ツバメをテーマとしたプログラムを考えよう」
堀本理華（財団普及室）

都市で暮らす人々にとってもっともなじみ深い鳥の一つがツバメです。しかし、支部でツバメをテーマにして活動されているところはまだまだ少ないようです。一般の方々に日本野鳥の会の良さ PR する手段としてツバメをテーマにした活動を展開されてはいかがでしょうか？市街地でツバメの子育てを観察するときには、自然の中で観察するときとは全く異なるノウハウがあります。この分科会ではツバメをテーマにしたときに支部でどんなことができるか考えてみたいと思います。

▲参加者集合写真

◆お申し込み◆
【参 加 費】10,000 円

【振 込 先】
銀 行 名　三井住友銀行
支 店 名　目黒支店
口　　座　（普）６９７９９４８
口座名義　公益財団法人　日本野鳥の会　　理事長　佐藤　仁志
※振込時は　ザイ）ニホンヤチヨウノカイで大丈夫です。

【申込方法】
下記ホームページよりお申込ください。
https://www.pac-sys.net/nmes-nankai/entry/?tancho-kansai2016

＜お申込のみに関するお問合せ先＞　（お申込以外のお問合せは財団普及室へ）
（株）南海国際旅行 TEL：03-3543-3272（担当：松山）

【申込期間】
2016 年 7月21日（木）～　9月30日（金）（定員になり次第締切）

【その他フォーラム全般についてのお問い合わせ】
（公財）日本野鳥の会　普及室　堀本、箱田
〒141-0031　東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
メール：tancho-staff@wbsj.org

（普及室／箱田敦只）

■2016 年度版「探鳥会保険のご案内」を発行いたします■

毎年 8 月 5 日は、財団が契約している探鳥会保険の契約更改の日です。契約更改に合わせて、「探鳥会保険のご案内」を改訂してお送りしていますが、今年度につきましては改定箇所はございません。

昨年度と同じ内容となりますが、日付のみ変更しましてお送りいたします。今後とも探鳥会の保険の件で何かご不明のことがございましたらお気軽にお問い合わせください。

（普及室／箱田敦只）

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇アメリカコアジサシの分類は？識別は？

コアジサシの亜種ともされてきたアメリカコアジサシは、近年、形態と鳴き声の違いから別種説も支持されつつあるそうです。日本では、標識調査で確認されたという新聞記事を紹介した支部報もありましたが、当会ホームページ、BIRD FAN のフォトギャラリーに、アメリカコアジサシとして写真の投稿がありました。

ホームページの担当者から、私に次のような相談がありました。

① アメリカコアジサシは日本鳥類目録改訂第７版には掲載されていないので、扱ってよいものか？（新版発行後、当会ホームページでも目録７版に準ずるよう努めているため）

②フィールドマナーに鑑みて、情報を制限する必要はあるか？（珍しい鳥の写真や撮影場所が公開されると、そこに人が押しかけて問題になることがあるため）

私は、我孫子市鳥の博物館の小田谷嘉弥さんに相談しました。小田谷さんは新版でカモメ類の分類や識別などをご教示いただいているし、昨年、日本鳥学会の大会で「日本からのアメリカコアジサシ *Sternula antillarum* の初記録」を発表したメンバーでもあるからです。

小田谷さんによると、・・・投稿された写真の個体は波崎愛鳥会の方が発見され、自分も同定に関わり、声と形態的特徴からアメリカコアジサシと考えられる。７月上旬ごろから、多くの方によって観察されているが、観察場所が狭いので出来るだけ情報を広めない方が良いのではないか・・・とのことでした。その後、山階鳥類研究所の茂田良光さん（前述の日本鳥学会大会での発表後、記者発表も担当された）からも「コアジサシのコロニーがあるので、そこが踏み荒らされるような危惧もある」と聞かされたこともあり、上記②の観点から、フォトギャラリーでの掲載は、当面は見送るようお願いした次第です。

なお、投稿された方がアメリカコアジサシとした根拠に「外側初列風切の３枚が黒い」という点をあげていましたが、小田谷さんによると・・・亜種コアジサシでも３枚が黒いものが少数いるため、確実な識別点とはならない。声、上尾筒と尾羽の色、初列風切と羽軸の色は亜種コアジサシの夏羽との識別点としては有効と考えられる・・・とのことでした。

◇メボソムシクイ？オオムシ？コムシ？

目録７版でメボソムシクイが３種に分けられたことには、ベテランバードウォッチャーでも戸惑った方が少なくありません。新版では、高野がメボソムシクイを解説したスペースの範囲で、オオムシクイ、コムシクイを含む計３種の声や分布の違いを解説しましたが、分布図では広域のコムシクイを示せず、文字で「コムシクイの繁殖分布はスカンジナビア半島からアラスカに及ぶ」と記しました。

これらの元になったのは齋藤武馬さんらの研究です。鳥学会誌では Vol.61,No.1,April, 2012 に「メボソムシクイ *Phylloscopus borealis*（Blasius）の分類の再検討：３つの独立種を含むメボソムシクイ上種について」として、掲載されました。７月 29 日の鳥ゼミ（＊）で、齋藤さんから、直接その研究について聞く機会がありました。ちなみに、齋藤さんは山階鳥類研究所に勤務されていますが、かつて東京支部（現、日本野鳥の会東京）の高尾山探鳥会に通っていた時期もあったそうです。

先に「３種に分けられた」と簡単に書いてしまいましたが、齋藤さんの話しを聞くと、これまでのメボソムシクイの分類の変遷と混乱を整理し、考えうる課題とその解決の方法に沿って、外部形態の細部の測定値だけでなく、DNA や音声も多々サンプルを集めて検討するという、気が遠くなるような作業を積み重ねてこられた結果であることが、改めてわかりました。

各地の支部報では、声で種を同定するための声紋分析の試みを紹介した記事も拝見しましたが、野外でメボソムシクイか？オオムシクイか？コムシクイか？がわからない場合の処理の仕方を齋藤さんに聞いたところ、鳥類標識協会誌に掲載された齋藤さんと茂田さん、上田恵介さんによる論文を紹介してくれました。「メボソムシクイ上種 ３ 種の外部形質を用いた識別方法」というテーマのまとめのところで、３種のうちどれかに種名が決められない場合の種名の記載方法について、・・・「広義のメボソムシクイ」という意味で、「メボソムシクイ上種」（学名表記だと *Phylloscopusborealis* s.l. となる.この s.l.はラテン語の分類学用語 sensu lato の略で“広義”のという意味）を提案したい・・・と書かれています。なお、この論文は下記のサイトからもダウンロード可能とのことでした。

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jbba/26/2/26_00060/_article/-char/ja/

（＊）鳥ゼミ：鳥類学の研究者や研究に関心がある人による、自主的な勉強会。

今年度から当会西五反田事務所で開催。情報はメーリングリストで共有しており、参加希望者は、以下のアドレスにコンタクト下さい。

join-tori-zemi.x6g2@ml.freeml.com

◇種を決められないことが多いのに・・・

近年、『フィールドガイド日本の野鳥』より多くの種・亜種を扱う図鑑もありますが、その図鑑で示された情報だけで、種や亜種が識別できるように書かれている点が気になります。それらを参考にしてしまったネット情報などが、より大きな誤解を広げているようにも思われます。

例えば、アップでピントが合った写真が撮れれば種や亜種を決めてもらえるものと勘違いしている方から、ワンカットだけ送ってくる識別依頼がよくあります。マスコミからの依頼では、地域、季節、環境などの基礎的な情報もないまま、「この鳥は何ですか？」が多く、「わかりません」と答えようものなら、怒られてしまう始末です。また、ベテランバードウォッチャーでも、分類や種・亜種を固定的に捉えている方がいるようです。

新版は、野外識別の意義、方法、心得など、基本的に大切と思われることを省かないようにしました。「まえがき」（P7）では、「野外での鳥との出会いはさまざまです。いつでもすべての鳥の名が判るとは限りません」と、高野が初版で書いていたことを引用した上で、・・・十分な観察ができなかった場合やよく似た種がいる場合は、種を決められないことが多い・・・と記したほか、分類は固定的なものではなく、今も研究が続いている・・・とも記しました。

「この本の使い方」では種と亜種（P12）で、遺伝的多様性や個体差、異種間交雑や分類上の諸説にも触れ、「野鳥の見分け方」の＜よくわからない場合＞（P22～23）では・・・印象や限られた情報で種を決めるのは誤りの元となりやすい。よい条件（例えば近距離、好天、順光など）、あるいはさまざまな姿勢や角度から確認できた特徴とともに、こんな個体がいたという記録を残すことが第一歩だ・・・と記し、「珍しい種や識別が難しい種の記録」（P307）では・・・観察や報告では、第三者が確認できるように識別根拠（その種と判断した根拠）が重要で、誤認や類似種の可能性を否定できるように、細部まで検討したほうがよい・・・とも記しています。

（普及室／安西英明）

▲新版で谷口高司さんに追加していただいた図版から、今回はオオジュウイチ（右は幼鳥）で、新版発行後も、オオジュウイチと思われる声が録音されるなどしています。キジカッコウも目録７版で新たに掲載されましたが、千葉県で一度記録されただけなので、カッコウ科の解説（P202）に含めるにとどめました。

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信８月号の電子メール版の購読者数は、先月から３名増えて 840 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表２．探鳥会スタッフ通信８月号電子メール版の購読者数（2016 年８月９日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪支部	5
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	3
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	5	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	12
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	5	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	4	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	16
ふくしま	4	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	10
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	8
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	6
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	11
群馬	25	筑豊支部	19
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	37	佐賀県支部	5
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	55	熊本県支部	14
奥多摩支部	47	大分県支部	3
神奈川支部	20	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	3
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	2
		合計	840

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）
ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。
配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

全国で開催されている「ツバメのねぐら入り観察会」の様子は如何でしょうか？
観察予定場所が変更になったり、残念ながら中止になったり、と自然相手の難しさを感じます。それだけに見事な乱舞を見る事ができた時には感動的です。（私は今年初めて見ました！）開催側には悩ましい事も多い企画ですが、広まると良いなと思います。
引き続き、リーダーズフォーラム西日本版の募集をしております。皆さまのご参加をお待ちしておりますので宜しくお願い致します。

じわじわと北上中のクマゼミ・・・暑苦しさに拍車がかかる夏になってきています。そして、この時期の早朝は各種セミの声に混ざって子ガラスのおねだりの声に起こされ、早起きの毎日です。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第41号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2016年8月10日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org